

エンジェル・アット・マイ・テーブル (1990)

AN ANGEL AT MY TABLE

メディア 映画

ジャンル ドラマ 伝記

製作国 ニュージーランド

色彩 Color

時間 158分

初公開日 1991/07/27

公開情報 フランス映画社

【キャッチコピー】

“あわてないでいい、天使が不意におまえのテーブルに来たとしても……” 真珠のような柔らかな輝き、天使がそこにいる。 ひとりの女性をかぎりない愛情で描いた感動作！

【解説】

「ピアノ・レッスン」の成功でハリウッドでもその地位を確立したニュージーランドの才女カンピオンの出世作で、同国の閨秀作家ジャネット・フレイムの自伝三部作の映画化。観る人の心に詩を愛する気持ちを植えつけ、あるいは取り戻させる力を持った美しい作品。恐らくは豪州、ニュージーランド出身の作家が共通して持つ、映像のプリミティブな力強さ（「ピアノ・レッスン」の後半でも狂熱的に発揮された）が、ナイーヴすぎる文学少女の自立の物語を節度を保って縁取らせ、なまなかでない映画的高揚を生み出しているのであろう。

鳥の巣のような赤毛の貧しい女の子は読書に目覚めるが、やがてその世界に閉じこもったため、精神病院に送られ、ロボット手術を強要されそうまでになる。だが自分の書いた作品が認められたことで、彼女は書くことの他に自分はないと悟る。その時、既に彼女は三十代半ばを超えていた。リルケの詩から取られた題名、不意に現れた“机の上の天使”とは即ち“希望”の代名詞である。

【クレジット】

監督	ジェーン・カンピオン	Jane Campion	
製作	ブリジエット・アイキン	Bridget Ikin	
原作	ジャネット・フレイム	Janet Frame	
脚本	ローラ・ジョーンズ	Laura Jones	
撮影	スチュアート・ドライバーク	Stuart Dryburgh	
編集	ヴェロニカ・ジェネット	Veronika Jenet	
音楽	ドン・マクグラシャン	Don McGlashan	
出演	ケリー・フォックス	Kerry Fox	ジャネット
	アレクシア・キオーグ	Alexia Keogh	若きジャネット
	カレン・ファーガソン	Karen Fergusson	十代のジャネット
	アイリス・チューン	Iris Churn	母
	K・J・ウィルソン	K.J. Wilson	父
	マーティン・サンダーソン	Martyn Sanderson	フランク
	ウィリアム・ブランド	William Brandt	バーンハード
	コリン・マッコール	Colin McColl	ジョン・フォレスト